

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<p><1年>【思考・判断・表現 書くこと】 ○漢字学習に対する意欲は全体的に高いが、実際に書く力には個人差がある。課題の意図をとらえて文章化することは苦手であり、漢字の適切な使用だけでなく、叙述の仕方やまとめる力を高める必要がある。</p> <p><2年>【思考・判断・表現 書くこと】 ○課題の意図を捉え、考えを書く意欲はある。しかし、読み手を意識して構成を考え文章化することに課題がある。</p> <p><3年>【思考・判断・表現 話すこと】 ○発言・質問を進んでできなかった生徒が23%いる。小グループでの話し合いはそこそこ活発にできるが、クラス単位の人数の前では発言することへの壁があると感じる。</p>	<p><1年>【思考・判断・表現 書くこと】 ○同音異字の意味に焦点を当てた学習や、「読むこと」との関連で意図を読み取ることの指導を行う。場面に応じた漢字の使用や叙述の仕方に関しては、実際に書いた具体的な文章での個別指導を軸に行う。</p> <p><2年>【思考・判断・表現 書くこと】 ○読みやすいか、分かりやすいか等の読み手を意識させて文章構成をする指導を行う。</p> <p><3年>【思考・判断・表現 話すこと】 ○発言を中心として進む授業形態の工夫をし、人前で発言することへの抵抗感をなくしていく。集団討論へのステップとして繋げていく。</p>	
社会	<p><1年>【思考・判断・表現】 ○1学期評定の第一観点のA評価の割合が全体の39%に対し、第二観点のA評価の割合は、全体の17%しかいない。自分の考えを文章で表現する力を高める必要がある。</p> <p><2年>【思考・判断・表現】 ○定期考査で思考判断表現力は、約60%であったが、1学期評定で見るとA評価が24%である。自分の考えや学習のまとめなどを文章にすることが苦手な今後の課題である。</p> <p><3年>【思考・判断・表現】 ○定期考査の結果を見ると、各観点の達成率の平均が思考・判断・表現は53%であり、知識・技能の57%に比べて低かった。また、単元のまとめプリントでも、単元の問いに対するまとめが苦手な生徒が多く見られた。</p>	<p><1年>【思考・判断・表現】 ○授業ではワークシートに自分の考えを書かせるとともに何故、そう考えるのか、根拠を示させることにした。また、意見交換の時間を取り、多面的な考えが身に付く活動を行っている。</p> <p><2年>【思考・判断・表現】 ○授業でワークシートを使い、授業内容や大切なところをまとめさせて、その授業を通して考えたことを文章作成していく。そして記述する際のポイントを示しながら考えをまとめさせていく。</p> <p><3年>【思考・判断・表現】 ○毎時間のワークシートで「考えよう」という問いを作成し、思考・判断・表現の力を伸ばす時間を設ける。また、単元の問いに対するまとめを行う際は、評価基準を示したルーブリックを作成し、まとめる上でのポイントを示していく。</p>	

<1年> 【思考・判断・表現】

○習熟度別少人数授業を行っていないため、学力の格差が激しい。特に思考・判断・表現は平均達成率が50%であり、知識・技能の78%と比べると非常に低い。生徒の実態として、①基礎・基本が身に付いていない②基礎・基本は身に付いているがそれを応用できない③基礎・基本を身に付け、応用することが出来る の3つ分けることが出来る。

<2年> 【思考・判断・表現】

○習熟度別少人数授業の展開により、習熟度に応じて授業ができ、生徒も満足しているように思われる。ただ、2年生になり、学力に大きな差が開いてきた。習熟度に応じて教える内容を精選し、くり返し教えることで基礎学力の定着を行う必要がある。また、「なぜ、そうなるのか」「どうしてそのように考えるのか」を大切に、自分でその説明できる生徒を増やしていく。そのために、授業の中で「考える時間」を設定していく。

<3年> 【思考・判断・表現】

○知識・技能の定着を問う問題に比べて、問題の意図を読み取り、様々な数量を扱う問題が多く、最後まで粘り強く考えられる生徒に限られる。定期考査における平均達成率も、知識・技能69%に対して、思考・判断・表現は41%であり、低い。ミスなく正答にたどりつくためには、知識・技能の定着も欠かせないが、習熟度別の少人数指導では、基礎クラスを中心に、基本的な計算ができない生徒も散見される。入試対策も意識して、基礎・定着・応用クラスそれぞれの生徒の求めるレベルを担当教員が把握し、全体の学力を引き上げていく必要がある。

<1年> 【思考・判断・表現】

○それぞれの実態に合わせて、小さな目標を立てさせ、授業終了前に確認プリントを行う。①については学んだことを授業終了5分前にプリントで再度確認させる。②についてはプリントで内容を確認したうえで、もっと効率の良い方法がないかを考えさせる。③についてはプリントで学習内容を確認し、さらに自分の考えを言語化して友達に共有することができるか確かめる。それぞれの目的に対して、どの部分でつまづいているかをより明確にできるように心がける。

<2年> 【思考・判断・表現】

○ただ計算の仕組みを教えるのではなく、「どうしてそのように考えるのか」また、「そのように考えることがなぜ必要なのか」という数学の本質を教えていくが必要になる。そのために、教員もしっかり勉強しておくことが大切である。生徒たちが数学を勉強するといいいことがあるな、と思えるようになれば、興味関心をもって授業などに取り組むようになると考える。

<3年> 【思考・判断・表現】

○毎回授業の冒頭に本時の目標を掲げ、本時に扱う内容と到達目標レベルを確認する。これを受けて、授業の最後には、『ふりかえりシート』を記入する時間を設け、「今後さらに知りたいことや学びたいことは何か？」などについて考えさせている。これにより、次のより深い学びにつながる視点をもたせ、学びを自己調整する姿勢を身に付けさせる。このようなフィードバックの繰り返しの中で、「やればできる」「やってみよう」という自己肯定感を育み、思考・判断・表現に関する力についても漸次底上げを図っていく。

理科	<p><1年>【主体的に学習に取り組む態度】 ○各クラス、興味関心は高く発言も比較的多いが、集中しきれない生徒や私語が大きな課題である。授業アンケートでも「全体は落ち着いて指示を聞いていたか」の問いに対してC(あまり思わない)が平均20%以上であった。 ○ワークやノートの課題未提出が多いことも課題である。声かけしたのにもかかわらず、未提出者が学年の約10%(20人以上)、提出者の中にも課題への取組内容が不十分な生徒もみられた。</p> <p><2年>【主体的に学習に取り組む態度】 ○タブレットによる活動が入り、主体的に取り組む姿勢が見られた。特に授業の振り返りやそれに伴う発展的な内容(リフレクション)にも活用ができた。</p> <p><3年>【主体的に学習に取り組む態度】 ○受験を意識するあまり近視眼的に点数に結びつく部分だけを勉強しようとする姿勢が目立つ生徒が少なくない。高校で学ぶ範囲への接続と1、2年での既習範囲とのつながりを意識した授業展開を指向していく。</p>	<p><1年>【主体的に学習に取り組む態度】 ○クラス全体が落ち着いて授業を受けられるよう、学習への意欲が高まるようなねらいの提示、授業の中で発言や演習、作業など活動のメリハリの明確化、発言等のルール見直しなどを図る。 ○ワーク等、課題の提出率の改善をはかるために、授業の中でワークに取り組む時間やクラスで確認していく時間をこれまで以上に確保する。未提出者の中には学習に課題がみられる生徒もいるため、知識や技能の基礎的内容の理解や定着のためにも授業の中で効果的にワークを活用し、基礎的な学力向上へつなげていく。</p> <p><2年>【主体的に学習に取り組む態度】 ○タブレットを常習的に利用することが重要である。定期的なログインがないと、課題を出しても提出期限が切れてしまうなどが生じている。声掛けを増やしたり、課題を提出する頻度を多くしたりするなどの対策が必要。</p> <p><3年>【主体的に学習に取り組む態度】 ○受験を意識した学習内容の定着を図る問題演習を行うとともに、発展的内容や既習範囲の復習を行う。再実験や問題演習後の教えあいや解説を通して、理解を深められるよう助言・指導する。</p>	
音楽	<p><1年>【技能・表現】 ○基礎的な音楽の力(読譜力、発声の仕方、音楽文化についての知識等)の定着度に個人差がある。</p> <p><2年>【主体的に学習に取り組む態度】 ○よく話を聞いて授業を受けている。だが、発言やリフレクションによる変化を見ると、やや受け身的な面が見られるため、主体的に音楽活動に取り組もうとする意識を高めたい。</p> <p><3年>【思考・判断・表現】 ○自分が音楽を味わい感じたことを、音楽の特徴と結び付けてとらえる力を高め、表現や鑑賞の活動をより深いものにしていきたい。また、リフレクションによる変化がもっと活発になるようにしていきたい。</p>	<p><1年>【技能・表現】 ○基礎基本の定着を目指し、反復学習、スモールステップの学習を多く取り入れる。</p> <p><2年>【主体的に学習に取り組む態度】 ○少人数グループで生徒主体に活動し、お互いに高め合う場面を、授業の中に取り入れる。 ○相互評価や自己評価の場面を設定し、自分たちで課題を意識し改善しようとする意識を高める。</p> <p><3年>【思考・判断・表現】 ○音楽を形づくっている要素を常に意識できるよう、掲示物やワークシートを用いて授業を行う。 ○音楽から感じたことを深めるために、感じたことの生徒同士の交流の場面を、いろいろな方法(発表、プリント交換、少人数での話し合い等)で設定する。</p>	

美術	<p><1年>【思考・判断・表現】 ○見本のとおりに真似をすることや単純な作業に関しては、比較的高いレベルで意欲的に取り組める生徒が多い一方で、与えられた課題に対して、自分らしく新しい発想や構想を練ることを苦手とする生徒も多い。</p> <p><2年>【知識・技能】 ○自分らしく発想や構想を練ることができる生徒は少なくないが、そのアイデアを形にする技能が身に付いていない生徒が多い。</p> <p><3年>【思考・判断・表現】 ○高い技能を持って表現することができるが、既存の模倣などができても、自分らしく新しい発想や構想を練ることは難しいと感じる生徒が多い。作品の構成面で自分の持つ技能をアピールしきれない生徒も少なくない。</p>	<p><1年>【思考・判断・表現】 ○作品鑑賞をする際に、客観的事実だけでなく、自分自身が感じたことやその根拠などを言語化し、論理的にまとめられるような鑑賞活動の充実を図る。これらを基に考えたことを自分の作品にどのように生かせるか、探究する取り組みを重ねて思考が表現を豊かにすることを理解できるよう、ワークシートへの記述などを課していく。</p> <p><2年>【知識・技能】 ○授業で学んだ知識がベースとなって、トレーニングで技能が向上していくことを理解できるようにする。そのために、単純な模倣の作業などをとおして技能面でアイデアを実現する感覚を味わうことができるようなトレーニングをメインとするワークシートを課題として出している。</p> <p><3年>【思考・判断・表現】 ○作品鑑賞の機会が削られてしまったこともあり、鑑賞で思考を深める活動があまりできていないため、グループで互いの作品を見てアドバイスをしあい、意見交換によってアイデアのブラッシュアップを図る活動を充実させている。また、自分の持つ良さや技能を生かせるような構成について、自己分析と手段について考え、記述するワークシートなどを課している。</p>	
保健体育	<p><1年>【主体的に学習に取り組む態度】 ○生徒アンケートによると、「積極的に授業に取り組み、進んで発言したり質問したりしているか」は82%に対して、「リフレクションによって学習に対する姿勢が変わったか」の質問に対して肯定的な返答は33%であった。このことから、生徒が「なぜ、どうして、どうすれば良いか」を深く考えていく活動を充実させていくことが、次の学びに結びつくと考えられる。</p> <p><2年>【主体的に学習に取り組む態度】 ○授業アンケートから説明や質問については90%以上の生徒がしっかり理解や受け止めをしているが、進んで発言したり質問したりすることについては4割程度となっている。これは理解したことを実際に行い新たに出てきた疑問や発見に対して今一歩自ら取り組もうとする姿勢が不足していると考えられる。</p> <p><3年>【主体的に学習に取り組む態度】 ○授業アンケートから、学習カード等を用いた振り返りの効果について肯定的に答えた生徒の割合は53%にとどまった。3年生ということもあり、積極的な生徒が多いが、評価のための記述や、記述内容が授業に活かされていないと感じる場面が多々ある。</p>	<p><1年>【主体的に学習に取り組む態度】 ○毎授業のなかで、理論的にグループワークをする時間を充実させていく。そのためには、深い思考を働かせ、判断したり、表現したりする力を伸ばしていく必要がある。特に、毎授業で自分自身や仲間を客観的に評価していくことが次時の学習意欲につながり、より主体的に活動していく場面につながっていく。</p> <p><2年>【主体的に学習に取り組む態度】 ○学習カードの振り返りや手本や自身の動画などから、より客観的に自分を観て、改善点や伸ばしていける箇所を自分で気づき、より深く自分から行動・追求できるような場面を設定し、活動を進めていく。</p> <p><3年>【主体的に学習に取り組む態度】 ○各技能について口頭説明だけでなく、今以上に視覚的に分かりやすい形で示し、振り返りのポイントとなる要素を授業内に多く取り入れる。振り返りの内容が授業への気づきや発見とリンクし、技能の向上につながるような学習カードづくりの工夫などの授業改善を行う。</p>	

<p>技術・家庭</p>	<p><1年>【知識・技能の定着】 ○授業に意欲的に取り組む生徒がいる一方で、実生活の中で「知識・技術」を結びつけて考えることができる生徒は少ない。</p> <p><2年>【知識・技能の定着と活用】 ○授業中の発言やワークシートへの記述など、意欲的に授業へ参加する生徒が多くみられた。定期考査や実技に関しては、まだまだ定着が甘く、学んだ内容を自らの知識へと変換できている生徒は少ない。</p> <p><3年>【思考・判断・表現】 ○授業内容に意欲的に取り組む生徒が多く見られる一方で、発問・問いに対して反応する生徒が少ない。</p>	<p><1年>【知識・技能の定着】 ○生活経験を振り返らせながら、言語化させることによって、「知識・技術」を定着させる。ICTを活用しながら生活実践力を習得させる。</p> <p><2年>【知識・技能の定着と活用】 ○「知識・技能」の定着のために、毎時間の目標を明確化し、日頃の予習復習を徹底する。また、得た知識を自ら用いられるよう、より実践的な授業体制を確立する。</p> <p><3年>【思考・判断・表現】 ○生徒一人一人が課題解決のための方策を考え、発表できるよう発問の仕方・内容を改善する。またICTを活用し、授業理解度の確認を徹底する。</p>	
<p>外国語</p>	<p><1年>【書く力】 ○定期考査や小テストなどにおいて、聞く力や話す力を測る問題は比較的よくできていたが、単語の書き取りや文章を書く問題に課題が見られた。</p> <p><2年>【書く力】 ○読む力、話す力、聞く力については力がついているが、書く力は依然として苦手と感じている生徒が多く、確認テストや定期考査でも点数が低い生徒が多かった。</p> <p><3年>【思考・判断・表現】 ○話すことや書くことについて、本文の内容や、具体的に条件が与えられている内容に関しては、適切に表現できるようになってきている。一方、自分で考えたことを自分の言葉で相手に伝えるということに関しては、正しい表現にできない生徒が多かった。</p>	<p><1年>【書く力】 ○授業内にライティング活動を意識的に取り入れ、少人数授業の利点を生かし、各教員でしっかりチェックできるような体制を取っていく。</p> <p><2年>【書く力】 ○英作文でよく見られる文法的な間違いや日本語を英語に変換する際の注意点等を全員で確認する機会を複数回設ける。また、基本文を使った自己表現文を授業や家庭で書き、チェックする。</p> <p><3年>【思考・判断・表現】 ○授業において、帯活動や自己表現活動の時間を確保し、「既習事項を用いて、自分の言葉で相手に伝える」練習を行うようにする。</p> <p>○定期考査や単元テストにおいて、初めて見る文章の内容を要約したり、状況に合う英文を書いたりする問題を取り入れる。</p>	